

Essay

Sapiarc.com

2019年5月12日(2019-1)

高齢者の自動車運転

高齢者が運転する自動車が大きな事故を起こすようになったのは、いつごろからだろう。高速道路を逆走する事故が何度も起こるため、高齢者とくに75歳以上の人の運転免許証を更新する手続きはどんどん面倒になっている。今では、更新のための講習を受け実技を行うために、2日間を要するようになっているようだ。しかし、更新が認められない場合は極めて少ない。更新の手続きを面倒にすることによって、更新を諦めさせようとしているのだ。

今年のはじめに、私は、50数年持ち続けた運転免許証を返却し、その代わりに、「運転経歴証明書」というものをもらった。これには写真が付いていて、見たところは運転免許証とほとんど変わらない。写真付きなので、いろいろな場合に身分証明書としても使える。私は、過去30年間以上、公道で自動車を運転したことはなかったので、運転免許証は身分証明書として持っていたに過ぎない。したがって、「運転経歴証明書」が身分証明書として使えれば、それで十分だということになる。

自動車による人身事故というものは一般に悲惨である。便利な自動車が人を襲う凶器になるのだから、たまらない。高齢者が起こす事故はとくに悲惨であることが多い。今年4月19日に東池袋の道路で起きた事故では、横断歩道を自転車で渡っていた31歳

の母親と3歳の娘を死なせたうえ、その他に歩行者8人に重軽症を負わせた。突然、最愛の妻と娘を奪われた夫が嘆く姿をテレビのニュースで見たが、真面目そうに見えるこの人の人生が今後どうなるのか気の毒で、見ているのがつらかった。

上記の事故はメディアに大きく取り上げられた。その理由は、大きな事故だったということのほか、起こした人の社会的地位が高いことにあった。この人も怪我を負っていて入院したので、逮捕はされなかったが、怪我が治ったあとで、逮捕されて、収監される可能性はある。しかし、87歳という高齢者であるため、収監されるかどうかはわからない。

私は、この人は認知症が出ていたのではないかと思ったが、そういうことではないらしい。足の状態が悪くなっていたので、外出に車を使うことが多かったようだが、運転を止めようかと言ったこともあったそう。それを実行していれば、どんなによかっただろうと思う。事故を起こしたあと動揺して、息子に携帯電話をかけ、「アクセルが戻らなかった」と言ったそうだが、実際にはブレーキを踏んでいなかったようだ。だから、時速100キロで、赤信号が付いていた横断歩道を2つも突破して、やや大型の輸送用車に衝突して、自分の乗用車は跳ね飛ばされ、輸送用車は横転した。恐ろしいことだった。

東京などの大都市では、電車やバスの公

公共交通網が発達しており、タクシーもたくさんあるので、自分で車を運転しなくてもよいはずだ。しかし、地方に行くと、日常生活に車を使うことは不可欠になっている。したがって、免許の更新をある年齢で止めることは難しい。しかし、何らかの手段で、高齢者の運転を止めさせることが必要になっているのではないかと思う。

また、自動車メーカーも自動運転の研究を生かして、赤信号が付いている歩道や交差点の手前で自動的にブレーキがかかるような車を作るべきだと思う。（おわり）